

## 温州ミカンの品質の予測について

岸野 功・浅田 謙介

(長崎県総合農林センター果樹部)

KISHINO, I., ASADA, K.

The relation between harvest and pre-harvest fruit quality in Satsuma orange.

### I. 緒 言

品質のそろったミカンを出荷するための一手段として、地帯別に区分して出荷する方法があり、すでに先進地では経験的な地帯区分によって出荷を行なっている例もある。しかし、新しい産地では、このような経験の集積に乏しく、収穫前の品質調査によって地帯区分を行なう必要がある。このためには、収穫前と収穫時の品質の間に関連のあることが前提条件となるので、収穫前と収穫時の糖、および酸含量の関係について検討した。

### II. 調査方法

県内22地区に、同一樹令の早生、普通温州それぞれ3本を選び、早生は9月20日、普通温州は11月5日以降、収穫時までの糖、酸含量を調べた。

なお、調査用の果実は41年は無作為に、42、43年は着色前にあらかじめラベルしたものをを用いた。

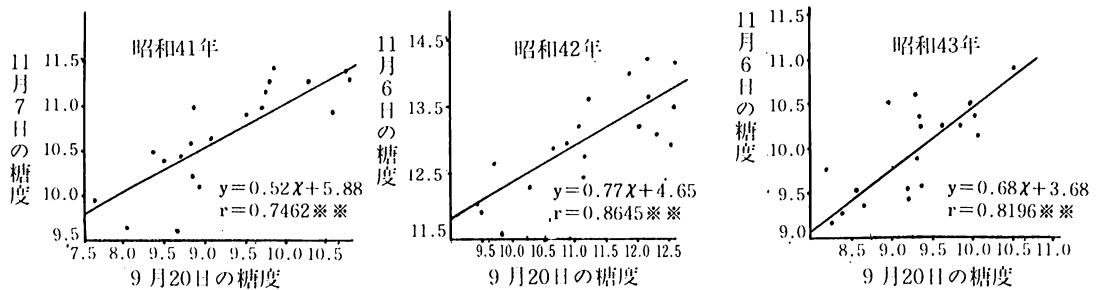
### III. 成績と考察

早生温州について、9月20日と収穫時の糖は3か年とも高い相関が認められるが、この中では41年の相関がやや低い。酸含量は41年を除いてかなり高い相関が認められる。

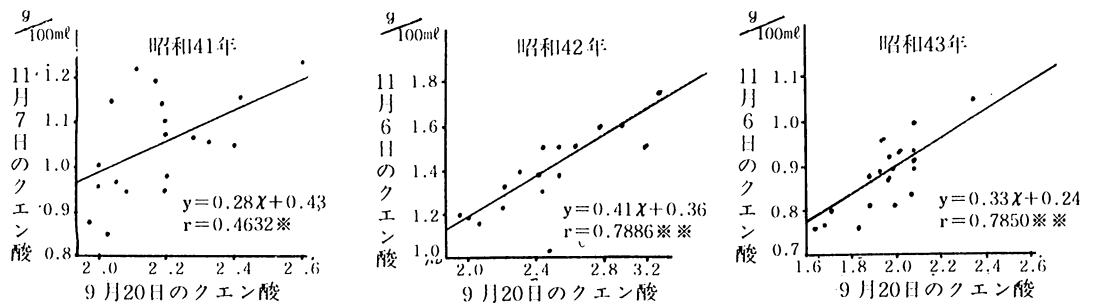
普通温州については、11月5日と収穫時の糖はいずれの年もかなり高い相関があったが、この中では41年は相関係数がやや小さかった。酸含量は3か年ともかなり高い相関が認められた。

このように、早生、普通温州のどちらでも収穫約1か月前の糖、酸含量から収穫時の糖、酸含量の多少が推測できそうである。しかし、回帰式は年によってかなり違っているので、今のところ、収穫時の糖や酸含量の絶対値の予測は困難である。

なお、41年は相関が低い傾向にあったが、この原因として、年、あるいはサンプリングの二つがあげられるが、詳細は明らかでない。



第1図 収穫前の糖度と収穫時の糖度の関係(宮川早生)



第2図 収穫前のクエン酸含量と収穫時のクエン酸含量の関係(宮川早生)